

**製品名:  $\alpha$ -SMA ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab20335**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.05% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ACTA2
別名	ACTA2; ACTSA; ACTVS; GIG46; Actin; aortic smooth muscle; Alpha-actin-2; Cell growth-inhibiting gene 46 protein
遺伝子 ID	59.0
SwissProt ID	P62736
免疫原	ヒト $\alpha$ -SMA の N 末端領域から誘導された合成ペプチド。アミノ酸範囲: 84-134

**背景**

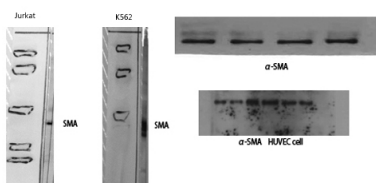
この遺伝子によってコードされるタンパク質はアクチンファミリーに属し、細胞の運動性、構造、完全性に関与する高度に保存され

たタンパク質です。α、β、γアクチンのアイソフォームが同定されており、αアクチンは収縮装置の主要構成要素であり、βおよびγアクチンは細胞運動の調節に関与しています。このアクチンは骨格筋に見られるαアクチンです。この遺伝子の欠陥は、家族性胸部6型大動脈瘤を引き起こします。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエントが同定されています。[RefSeq提供、2008年11月]、疾患：ACTA2の欠陥が家族性胸部6型大動脈瘤（AAT6）の原因である[MIM:611788]。AATは、通常、大動脈壁の変性変化に起因する胸部大動脈の永続的な拡張を特徴とする。主に「中膜壊死」または「エルドハイム嚢胞性中膜壊死」として知られる特徴的な組織学的所見を伴い、弾性線維の変性と断片化、平滑筋細胞の喪失、および好塩基性基質の蓄積がみられる。機能：アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な種類の細胞運動に関与し、すべての真核細胞に普遍的に発現している。その他：脊椎動物では、アクチンアイソフォームの3つの主要なグループ、α、β、γが同定されている。αアクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素である。βアクチンとγアクチンは、細胞骨格の構成要素として、また細胞内運動の媒介因子として、ほとんどの細胞種において共存する。類似性：アクチンファミリーに属する。サブユニット：球状アクチン（Gアクチン）が重合することで、二本鎖らせん構造のフィラメント（Fアクチン）が形成される。各アクチンは4つのアクチンと結合することができる。

## 研究分野

血管平滑筋の収縮

## 画像データ



α-SMA ポリクローナル抗体（1：500希釈）を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1：20000に希釈した。